

作成: 芝崎

48. 青春時代の思い出篇: 全国から東京に集まる多様な人間模様その一編

朝日新聞の天声人語に沖縄の詩人の一編の掲載があり、『この島では、雪が降らない…だが、鉄板、部品、金属片なら、時々空から落ちてくる』云々…この島では、雪が降らないの文を見て、東京での思い出がよみがえってきた。12月中旬ごろ雪☃️が降ってきて、本格的なまた冬の始まりだと寂しく思った瞬間、外に出て一人でキャアキャア騒いでいる学生(男性)がいたので、何かと思った。彼は沖縄出身の学生でその時、天から舞い落ちてくる白い物、即ち、雪☃️を初めて、見たらしく、驚きと白きものにとっても感動したようだった。毎年、雪にいろいろ苦勞してきた北国の人たち(私も含めて)とは感覚が違うようだ。日本の北と南では大きく風土・歴史・生活習慣等相違から偶然他の世界を知る事(東京に各地域の人びとが集結)でその驚き/感動の差がとても面白い。

笑いのポイント(笑点)

四: (四)つの繰り返されるシーズン

季: (季)節ごとの楽しみあり、体がもう自然と順応

の: (の)どかなイメージがする南国の人が北国の世界を体験することでそのGAPに驚く

風: (風)景も季節により変わり、気分転換

景: (景)色を見て、各四季で北国も南国の人もどう対応するかはわかっている気もする。



四季ごとに子規等の鳥たちや紫錦唐松(しきんからまつ)等の草木の変化を通じて実感し、このサイクルで1年を回ると、なんとなく安堵感が得られる気がする。



新雪に残る足跡 (北国)



1月頃の沖縄の風景(南国)



紫錦唐松(シキンカラマツ)



以上